

HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第5号 2006年12月

明治学院大学 海外ワークキャンプ実施レポート

明治学院大学宗教部主催、ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン (HFHJ) 協力によるフィリピンワークキャンプが2006年9月9日(土)から9月18日(月)の計10日間の日程で実施されました。今年で5回目を迎える本ワークキャンププログラムは明治学院大学教養教育センターの履修科目として位置付けされており、学生参加者の大半(*¹)はこのプログラム終了後にレポートの提出や報告会の実施を経て単位取得を目指します。(*1: 学生参加者の中には単位取得を目的としない者もいます。)



今回、私はこのチームに同行し、メトロ・マニラ (Metro Manila) と呼ばれるマニラ首都圏 (National Capital Region, NCR) を構成する13市のひとつ、バレンスエラ市 (マニラ市から車で北に約1時間) にて取り進められている「NMA-BTHOA Project Site」での住居建築活動に参加してきました。滞在期間中は連日の夕立 (激しい雷雨) により、一時、宿泊したホテルの目の前の道路が冠水してしまうようなハプニングにも遭遇しましたが、建築活動は日中35度を超える真夏日の中、地元住民・ボランティアも合わせ総勢70名近い大所帯での熱気にあふれたものとなりました。

NMA-BTHOAでは鉄筋コンクリートとブロックによる棟割り様式 (2階建て) を採用しており、建築資材となるセメント

作り、ブロック運び、砂運び、壁作りが主な作業内容でしたが、ハウスオーナーとその家族、親戚、プロの建設職人を含む地元住民との共同作業を通じて、単なる建築活動とは違った充実感を各メンバーは手に入れていたように感じました。また、地元の高校でつくるボランティアチームが入れ替わり現場を訪れ、共に作業をすることになり、最高の国際交流の場に恵まれました。このボランティア活動が大勢の人々の輪によって支えられていると改めて実感する良い機会となりました。

今回のプログラムでは、住居建築活動の他、マニラ市パナイ地区にて既にプロジェクトを終了したハビタットハウスでのホームステイ体験を始め、子供たちのための食糧配給や奨学金支援プログラムを運営している現地NGO、SALTファウンデーションの実施するツアーへの参加、バレンスエラ市長表敬訪問、フィリピン大学訪問、現地教会訪問、マニラ観光等を行ってきました。SALTの活動するケソン市パヤタス地区ではスモークマウンテンと呼ばれるゴミ山を訪れ、その現状を視察し、カシグラハン地区ではデイクアセンターで地区の母親たちが仕事として行っているクロスステッチ作業を体験するなど、普段、我々が踏み込むことのないフィリピンの現状を知る貴重な経験であったと思います。

最後に、現地住民 (特に子供たち) と密に接した建築活動、文化交流会、ホームステイでのメンバーの表情はとても印象的でした。非常に短い住居建築ボランティア活動であり、チームとして協力できたことはほんのわずかでしたが、我々ボランティアの「どうにかしたい」という姿勢とその積み重ねが貧困を脱しようとする地元住民の希望を実現へと導く大きな原動力になっている印象を強く受けました。今後も継続的かつ発展的なプログラムの提供により、参加する学生の想像力、エネルギー、希望を「世界から貧困住宅をなくす」ための大きな原動力へと育てる、そんな役割の一端を担えることが出来ればと思います。

(HFHJ ユースプログラムマネージャー・山崎 顕太郎)



チーム名 MGU Work Camp '06

活動日程 2006年9月9日(土)～9月18日(月)

メンバー 大学生17名 (男2名、女15名)

学院牧師1名

受入れ国 フィリピン共和国

活動場所 バレンスエラ市

NMA-BTHOA プロジェクトサイト

入居予定世帯数 72家族

**グローバルフェスタ JAPAN 2006
に出展しました!**



毎秋恒例、国際協力団体が集まる国内最大のイベント「グローバルフェスタ JAPAN 2006」が9月30日、10月1日の両日、東京都千代田区の日比谷公園で開かれ、ハビタット・ジャパンも出展しました。会場は多くのNGOをはじめ、各国大使館、外務省、国際協力機構などのテントが立ち並び大盛り上がり。期間中、日比谷公園への来場者が総数66,696人にも上るなか、ハビタットブースは多くの学生ボランティアに支えられ、たくさんのお客様が来てくださいました。皆様のご協力ありがとうございました。

パキスタン北東部地震の発生から10月8日で1年が経過しました

4万人を超える人々が亡くなったとされるここジャンムカシミール州バラコートでは、まだまだ瓦礫やテントが散見され、今も地震のつめ跡を残しています。それにもかかわらず、海外の援助団体の姿はほとんどなく、バラコートは以前にも増して孤立感を深めています。復興はまだまだ長い道のり、というのが率直なところですよ。

ジャパン・プラットフォームの助成を受け、ハビタット・ジャパンが支援を開始してから半年が過ぎました。これまで約1,000世帯（約5,000人）に対して製材を提供してきました。しかし、夏はモンスーンの影響で豪雨と土砂崩れが続き、秋には多くの住民が冬に備え農作業に精を出すため、



住居の復興は遅れに遅れていました。だがここにきてようやく、政府の被災者に対する手当が提供され始めたこともあり、提供してきた製材が少しずつ形を成してきました。支援を行う者として、提供した製材が屋根や土台、壁に使われていることは非常に喜ばしいことです。

被災地に2度目の冬が近づいています。パキスタンでもここ北東部の冬はとくに厳しいものがあります。いつ破れるかもしれないテントの中で、毛布なども十分に持たない被災者が多く残されているのが現状です。冬は12月そして1月とさらに厳しくなりますが、提供している製材が被災者の住居そして努力を支える「柱」となるよう引き続き支援を行っていく計画です。（山本 真太郎）



タイを訪れて（HFHJ 理事長・安藤勇）

10月20日、タイに行く用事ができて、ハビタット・フォー・ヒューマニティ・タイランドを初めて訪問しました。中央事務所はバンコク市内のSSP タワービルの15階にあり、ハビタット・タイの7人のスタッフは温かく私を歓迎してくれました。ハビタット・ジャパンからの初めての訪問者だと見えて、彼らは喜んでくれたような気がしました。午前中、ハビタットはタイでどのような活動を行っているのかを聞き、午後に彼らの案内で住居建築の現場を視察しました。

ハビタット・タイは1998年の設立からこれまでに1,410軒の住居を造りましたが、2006年～2007年だけに限って言えば2,045軒の新しい住居の建設を目標にしています。それは2年前の津波で家を失った人たちが多くからでしょう。タイ国内にはハビタットの支部（アフィリエイト）が5つあり、そこには専任職員がおりませんので、バンコク事務局のスタッフがよく現場を訪れるようにしているとのことでした。私が訪問した時期に、米国からジミー・カーター元大統領が11月1日にバンコクに立ち寄り、彼を世話するために、ハビタットの事務局は大変忙しそうに見えました。

ハビタット・タイは日本と密接な関係を作りたいことを望み、私に様々な具体的提案を出してきました。そのひとつはタイ国内で経済活動を行っている日本企業との接触です。昔から、タイにはたくさんの日本企業が進出しており、ハビタット・ジャパンの協力を求めて資金集め

を行いたいという希望です。これに関連して、ボランティアとしてバンコクの事務局で一時的でも働ける日本人がほしいし、住居建設のための技術者・会社員ボランティア、一般の若者などのプログラムをハビタット・ジャパンと一緒に立てたいとおっしゃっていました。

これから、このような活動の可能性もあると考えて、楽しくなります。

ハビタット・タイの住居建築現場にて、スタッフ、ハウスオーナーと（左端が筆者）



ジミー・カーター・ワークプロジェクト

ジャパンチームが参加しました！



ジミー・カーター氏(左)、ブラッド・ピット氏(右から2人目)、HFHJインターナショナルCEO ジョナサン・レックフォード(右)

1984年から毎年世界各地で開催されているジミー・カーター・ワークプロジェクト（JCWP）ですが、今年は10月29日から11月3日にかけてインドでおこなわれました。ジミー・カーター夫妻はもちろん、俳優のブラッド・ピットも参加し、世界中から集まった2,000人以上のボランティアとともに汗を流しました。

日本からはKeiko Chenさん、永瀬泰子さん、白取耕一郎さん、鈴木崇祥さん、Jeremy Huffakerさんの5人が参加し、ジャパンチームとして大活躍しました。期間中はかなりのハードワークだったようですが、100家族の「きちんとした家を持つ」という長年の夢を叶えることができました。

なお、インドでは住居のうち60%が貧困住宅であり、ハビタットは「India Builds」と銘打って、5年間で5万軒の住宅を建築する予定です。今回のJCWPは見事にその幕開けのイベントとして成功を収めました。

来年のJCWPは米国ロサンゼルスで行われます。

イベント＆プロジェクト

Event and Project

関東3大学がバングラデシュ支援のチャリティーイベントを開催

関東キャンパスチャプター3校（神田外語大学、青山学院大学、明治学院大学）は共同で12月16日（土）：第一回公演（13時～）第二回公演（17時～）、東京都渋谷区のpolygon表参道にてバングラデシュ支援チャリティーイベント『BANGLA～Build A Next Gratified Life And…～』を開催します。当日はゲストに、日本人とバングラデシュ人の面白いコンビ「アミ・ポロク・ホエ・デシュ・ジェテ・チャイ」、バングラデシュ人写真家「アニスル・ラハマン」の皆さんを招き、トークショーを行う他、写真展、工芸品の販売などバングラデシュを五感で味わって頂ける盛り沢山の内容でお待ちしております。そして、イベントを通じてより多くの方々にバングラデシュの現実について理解していただき、支援へとつながっていきたくと考えています。皆様、奮ってご参加ください。



■イベント目的

▼「Let's Sense Bangladesh」: まずはバングラデシュを知ること、広めること。▼「Building House」: 15万円で建つレンガ造りの一軒家。イベントで集まったお金をレンガやセメントに変えてみんなでバングラデシュに家を建てよう。▼「Build A Next Gratified Life And…」: 家があることの喜びを自信や希望につなげ、バングラデシュの人々へ笑顔を届けよう。参加費は1,500円（チャイ付）。※収益金は全額、バングラデシュでの住居建築費として現地へ持参します。

お申し込み及び詳細はウェブサイトへレッツアクセス！

<http://bangla.web.fc2.com/>

～1日100円からできる家づくり支援～

ハウスサポーター・プロジェクト

ハウスサポーター・プロジェクトは、ひと月3,000円、1年で36,000円を1単位（ユニット）としてお申し込みいただくことで、世界中の家が必要な人の家づくりを支援することができるプログラムです。

ユニットとは屋根や壁などの様々な家の部位（ユニット）のことです。一軒の家を屋根や壁など10の部位に分けるように一軒の建設総費用を分け、1ユニット36,000円と設定しました。ユニット数は自由に選ぶことができます。一軒の住宅に必要なユニット数は10ユニット。複数のサポーターからのお申し込みを、ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンが一軒分に取りまとめ、現地に送金します。家が完成すると、どんな家が建てられたか、現地のオフィスからの家族の様子などを記したリポートや写真を送るので、支援の成果を実感することができます。

現在の建設支援予定国はフィリピン、インドネシア、バングラデシュです。詳しくは、資料をご請求ください。

皆さんもハウスサポーターとなって、家づくりを支援してみませんか？



GV報告と課題 – 青山学院大学SHANTI SHANTI

今回、私たち青山学院大学 SHANTI SHANTIが訪れた先はバングラデシュ。この国名を聞いてこの国がどんな国でどこに位置しているかを即座にイメージできる人は少ないと思います。自分もその一人でした。私たちはそのようなあまり知られていない国、バングラデシュでわずか10日間ではありますが、現地の人々とともに過ごし、建築活動を行ってきました。

私たちが建築活動をした場所は首都ダッカから国内線とバスを乗り継いで2時間程行ったシャッキラという町でした。そこには多くの自然が残っていて、広い空の下に原色の緑がどこまでも広がっていたのが印象的でした。しかし人や家、町を見ていると人々の暮らしは決して裕福とは呼べない



というのが現実です。特に家に関しては木や竹でできた家が多く、中にはコンクリートとトタン屋根の家もありましたが老朽化が進んでいて家は傾き、所々にひびが入っているという状態でした。さらに家の中はとて狭く寝るためだけに存在しているという印象を受けました。

実際の建築活動の内容としては家を建てる前の外枠の測定、外枠に沿ってスコップで穴を掘る作業、家の外壁となるレンガを運ぶ作業、レンガを固めるためのセメント塗りなどの手伝いが主な作業でした。バングラデシュは雨がよく降るため、時には掘った穴から雨水を出す作業を行うこともありました。それらの作業をハウスオーナーやその家族、現地のボランティアスタッフの皆さん、そして近所の子供たちと片言のベンガル語を使いながら和気あいあいとした中、一緒に行いました。

グローバルヴィレッジ(GV)全体の感想としては、GVを通して人種や宗教を超えた交流などまたひとつ貴重な経験をさせてもらったというのが率直な意見です。このような経験することで貧困に対する知識や理解が深まり、個人としても、一ボラ

ンティア団体としても更なる活動の飛躍のきっかけになると考えています。しかし、今回のGVでは何か足りないものが残ったということもまた正直な意見です。

もちろん専門的な知識や技術のない私たちができたこと、しかも10日間という短い時間の中でできたことというのは大きなものではないと思います。私たちも100%満足したわけではありません。では100%に近づかせるためにはどのようなことが必要か、それはGV前の事前調査やGV後の啓発活動ではないかと思っています。特に啓発活動は私たちができる一番影響のある活動ではないかと思っています。自分たちが実際に行ってきた場所ならば説得力も増すはずで、知っていることと知らないことの間には大きな差があると感じたことも今回のGVを通しての感想のひとつです。

バングラデシュはもはや知らない国ではありません。バングラデシュの現状をまだ知らない人たちに知ってもらい考えてもらうことがGVを経験した私たちが個人であれ、団体であれGVに付加価値を与えられることだと改めて強く感じました。

(SHANTI SHANTI リーダー・本郷 一紀)

ボランティアプログラム 新企画！ フロリダで Learn & Build

ハビタット・ジャパンはレイテ島での「Japan Hope Builders」に続き、「学び」に焦点を当てた「Learn & Build」という新しいタイプの海外建築ボランティア（グローバルヴィレッジ＝GV）を企画しました。Learn & Buildは現地の人と一緒に建築活動をメインにしたボランティア活動をおこないながら、英語力を高め、ボランティア精神や他国の文化を体験的に学ぶというプログラムです。



今回は米国フロリダ州デイド市のEast Pascoアフィリエイトへの派遣になります。彼らは建築だけでなく、資金集めやパートナーとなる家族のサポートなども積極的におこなっています。例

えばPRと資金集めを兼ねた本格的な自転車レースの開催、不要になった家具や住宅設備などを売る「ホームストア」の運営、アルミ缶やインカートリッジのリサイクルプログラムの運営などです。ちなみにリサイクルプログラムからの収益で、住宅建設コストの35%をカバーしています。

チームメンバーには地元の人だけでなく、ピッツバーグ大学からのボランティアグループなどと一緒に建築活動をおこなってもらいます。また自転車レース開催の運営の手伝いや、リサイクルプログラムへの参加、地元企業や大学の訪問、ディズニーワールドでの休日なども予定されています。

チームリーダーはアメリカのハビタットでのインターン経験がある寺田茉莉子さんになります。参加資格は日常会話レベル以上の英語力を有する18歳以上の方で、建築の未経験者も歓迎です。

参加費用は少し高く、会員は298,000円～338,000円、非会員は308,000円～348,000円程度になります。宿泊代や車両レンタル費などが参加者数によって変わってくる関係で、参加費用は参加者が仮決定してから確定する形になります。

詳細な情報をご希望の方はinfo@habitat.jp.orgまでご連絡ください。

寄付・助成リスト（2006.7.1～10.30）

みなさまのご支援を「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」の実現のために使わせていただきます。本当にありがとうございました。

<寄付>

日付	寄付者名	支援国指定	金額
7・7	匿名	インドネシア	21,854
7・7	匿名	フィリピン・レイテ	10,675
7・10	東海大学教員		10,000
7・28	佐賀JET	バングラデシュ	180,000
7・31	グッドワイン・コリーン		17,000
8・1	斉藤貢	フィリピン・レイテ	54,446
8・10	宮崎JET	バブア・ニューギニア	81,705
8・21	横浜ユニオンチャーチ		35,419
9・19	CODE 海外災害援助市民センター	フィリピン・レイテ	500,000
9・29	今泉すず枝		5,000
10・23	落合功男		1,000
10・30	神田外語大学	インドネシア、パキスタン	72,829

<助成>

8・16	ジャパン・プラットフォーム	パキスタン	4,999,100
------	---------------	-------	-----------

（敬称略、単位＝円）

寄付支援は下記の口座にお願いいたします。

郵便振替口座：

口座番号：00100-2-278431

口座名義：(特活) HFH ジャパン

銀行口座：

振込先：三井住友銀行 中野坂上支店
Sumitomo Mitsui Banking Corporation, Nakanosakaue Branch,

口座番号：普通4180738

口座名義：トクビ ハビタットフォーヒューマニティ ジャパン



**Habitat
for Humanity®**
Japan

ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは地域のニーズに基づいたプログラムや個人参加を通して世界中の貧困住宅の撲滅を目指しています。2006年は100以上の国々で、100万人近くのボランティアが参加しています。私たちのエキサイティングな活動に関するさらなる情報をご希望の方はぜひ下記までご連絡ください！

Habitat for Humanity Japan

〒164-0003

東京都中野区東中野1-45-5 Tel: 03-5330-5571

日ノ出ビルB101

発行人：塚本 俊也

編集人：茂木 周二

同：中川 ミミ

Fax: 03-5330-5572

URL: www.HabitatJP.org

Mail: info@HabitatJP.org

